

「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業

いま、「地域の子どもを地域ではぐくむ」を合言葉に、学校・家庭・地域が一体となって子育て・教育に取り組む「教育コミュニティづくり」が重要になっています。

「子ども」「学校と一緒に」の2つのキーワードのもと、「地域の子どもたちのため」という共通の目標に向かって、学校・家庭・地域が一体となつてともに汗をかき、知恵を出し合いながら、学校と地域での活動の両方を活性化することを目指します。

1 はぐくみネットとは？

子どもは家庭を中心に、学校の教員や地域の住民に見守られながら、さまざまな経験や学びを通じて成長していきます。子どもにとって、多くの人と関わり成長していくことは、様々な価値観を身につけ、人間性を豊かにし、「生きる力」をはぐくむことにつながります。

そのため、**地域社会の共有財産である学校を核に、学校教育支援**の取り組みを進め、地域社会で様々な人が継続的に子どもに関わるしくみをつくり、人と人とのつながりによって子どもをはぐくんでいくという「**教育コミュニティ**」をつくることをめざして、市内の小学校区において、「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」が設置されています。

2 はぐくみネットコーディネーター（地域学校協働活動推進員）とは？

はぐくみネットが学校・家庭・地域をつなぐ役割を果たすために、取組の要として活躍している地域ボランティアです。事務局を設け、各組織・団体間の連絡調整や情報収集・発信、会議の準備などを行っています。

平成29年3月に改正された社会教育法では、学校と地域の情報共有に向けコーディネートや助言等を行う「**地域学校協働活動推進員**」の委嘱に関する規定が整備されました。大阪市では、平成31年4月に「はぐくみネットコーディネーター設置要綱」を改定し、「はぐくみネットコーディネーター」を正式に「**地域学校協働活動推進員**」に位置づけました（大阪府下では初）。

【地域学校協働活動とは】

文部科学省は「地域学校協働活動」を、地域の高齢者・保護者・PTA・NPO・民間企業・団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動と定義しています。

はぐくみネット事業は、「教育コミュニティづくり」をめざして「地域学校協働活動」を進める事業と言えます。

3 はぐくみネットの活動内容とは？

① ネットワークづくり

学校・家庭・地域の情報・意見交換の場づくりをしています



各小学校区の「はぐくみネット」は、地域の諸団体のほか、小学校、PTAの代表者などで構成され、会議などの様々な取り組みを通して、学校や地域の子育て・教育活動に関する情報の共有や意見交換を行い、互いに協力しながら活動を行っています。

【活動のポイント】

- 会議の開催、ボランティアの募集や紹介、お祭りなどの地域全体が協力して取り組む催しの開催などの様々な取り組みを通じて、組織・団体や個人の間をつなぎ、互いに協力しあって取り組む関係をつくることで、**地域全体の子育て・教育に取り組む力を高める**ことをめざしています。

② 学校教育の支援

学校と地域をつなぎ、学校に地域の力を導入しています。

コーディネーターを中心に、「はぐくみネット」が学校と地域の間のつなぎ役となり、学校のニーズに応じて地域の方をボランティアとして紹介するなど、学校教育を支援しています。

【活動のポイント】

- 学校側のニーズと地域の力が必要なときに会うことができるように、**日ごろからお互いに情報を共有する取り組みが大切**です。学校からは、どんな子どもを育てようとしているのか、そのためにどのような教育活動をしているのかを知ってもらい、「こんなときに、こんな支援がほしい」など、具体的なニーズを積極的に発信してください。
- より多くの地域のボランティアが関わって、普段の学校の様子を知ってもらうことが、学校への理解を深め、学校への支援の充実につながっていきます。ゲストティーチャーなどの特技や知識を授業で生かしてもらうものから、登下校の見守り活動などの気軽に参加してもらえるものまで様々です。学校のニーズに合わせて地域の力を生かしていくことが大切です。
- 生涯学習ルームの受講生が学んだ内容を子どもたちに教えるなど、学校内ですでに実施されている地域活動と学校の教育活動をうまく組み合わせる取り組みも大切です。

③ 教育コミュニティづくりに資する諸活動

人と人が出会い、交流する催しなどを開催しています。

子どもの体験教室や、大人と子どもが交流する催し、地域の子育て・教育について考える取り組みなど、子どもの成長に役立つ活動を通じて人と人のつながりをつくることをめざし、地域の特性を生かしながら、休日や放課後などに、構成する諸団体が力を合わせて様々な取り組みを行っています。

【活動のポイント】

- 「**大人が楽しいことは、子どもも楽しい！**」子どもを中心に置きながらも、スタッフである大人自身も楽しめる取り組みにすることが、活動を長く続ける秘訣です。
- 地域の大人や子どもに、催しの参加者としてだけでなく、スタッフとして企画や運営に関わってもらう機会を増やしていくことで、より充実した取り組みにすることができます。
- お祭りなどの年に1回の大きな催しのほか、隔月や毎月、毎週など、小規模でも継続的な取り組みも取り入れることで、地域の交流をより深いものにできます。



④ 情報発信

子育て・教育の情報を地域で共有するために、情報収集して発信しています。

地域の住民全体で子育てや教育に関わる情報を共有し、ともに子どもたちを見守り、育てていく機運を高めるために、情報誌の発行、Webページの作成などによって情報を発信しています。

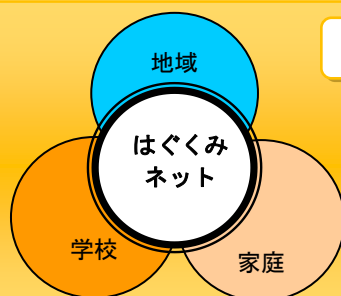
【活動のポイント】

- 記事の取材などの情報収集を通して、人や団体とのつながりを広げていきましょう。
- 担当者だけでつくるのではなく、取材・執筆や、イラストの描画などの作業を分担しながら、みんなで楽しくつくりましょう。
- 一人暮らしや高齢者の方々など、普段はあまり学校や子どもと接点がない方にも「はぐみネット」の取り組みに興味を持って読んでもらえるように、内容や周知方法を工夫しましょう。（情報の発信方法は、地域の実情に応じた方法で行ってください。）

ちよこつとメモ 平成24年6月20日に教育長から通知があり、事業の会計管理に関しては、学校関係者が関与しないよう通達されています。はぐみネット事業経費の会計事務処理は、地域の方で行ってください。

「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業

はぐくみネット
モデル図



①学校・家庭・地域の情報共有・意見交換の場づくり

②学校と地域をつなぐ観点で学校教育を支援

③教育コミュニティづくりにつながる活動・行事等の実施

④学校・地域をつなぐ情報の収集・発信

教育委員会

- ・コーディネーター委嘱
- ・コーディネーター研修
- ・進捗管理・情報提供
- ・事例研究

(連絡調整)

各区役所

- ・予算管理
- ・契約・支出事務
- ・区内の交流促進
- ・広報等

小学校区教育協議会－はぐくみネット－

《構成メンバー・団体・機関》

P T A 役員・地域活動協議会長・連合振興町会長・社会福祉協議会・子ども会・老人会・女性会・民生委員・児童委員・主任児童委員・青少年指導員・青少年福祉委員・生涯学習推進員・教職員（学校長・副校長・教頭・教務主任等） など

はぐくみネットコーディネーター
(地域学校協働活動推進員)

学校

地域

家庭

①情報共有・意見交換の場づくり

学校や地域の子育て・教育活動に関する情報共有や意見交換を行い、互いに協力して活動を実施

②学校教育を支援する取組

○授業への参画・支援

(ゲストティーチャー、商店街を利用したキッズマート、読み聞かせ、伝承遊び、学校図書館ボランティア、伝統野菜の栽培支援など)

○クラブ活動支援 (経験者の指導のほか、生涯学習で学んだ成果の児童への還元等)

○環境整備 (校内緑化、ビオトープ整備など)

○登下校安全確保の活動 (通学路の見守り、巡視活動など)

③教育コミュニティづくりにつながる活動・行事等の実施

○地域の諸団体が連携し、こどもの体験や、異世代交流につながる催し等を開催

(地域ふれあいまつり・フェスタ、防災訓練、各種講座・クラブ活動、親子向け講座など)

④学校・地域をつなぐ情報の収集・発信

はぐくみネット情報誌や Web ページで、校区に学校や地域の情報を発信、ボランティアや催しへの参加者を募集